

授業科目名	ダンスワークショップ実習B	担当教員	児玉 北斗
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	1年第4クォーター		
講義内容	<p>冬期集中講義として「振付」という角度から、振付／ムーブメントワークショップ、ディスカッション、文献講読、ライティングなどを通じてダンス作品の創作における方法論、倫理観やコミュニケーション能力、大胆などを培う。「振付」という概念を挙げ、現代における振付家の仕事を実践・鑑賞を通して検討することで、ダンスと身体に関する理解を深める。</p>		
到達目標	<p>まず、(1) 振付家に必要とされる実践諸能力を基礎付ける。そしてそれにとどまらず、(2) 振付という実践をラディカルに捉え、世界的なダンスの文脈に対応できる思考能力を言語的に示すことが出来るようになる。特に、(3) 空間・時間・身体・言語の関係性において「振付」という視点を創作活動にとどまらず社会的に適用する思考ができるようになる。また、(4) 振付とダンスの言説を理解することで、振付家を活かした仕事の企画を立案できる力をつける。</p>		
授業計画	<p>本実習は振付家との実践的ワークショップを踏まえた上で、受講者が「振付」という視点からパフォーマンス（旧来的な「ダンス」の枠組みに限らない）の構想と創作プロセスを経験するものである。</p> <p>初日のイントロダクションと「振付」という概念を歴史的背景から再考するレクチャーを通して、現代的なダンスの実践への導入とする。振付家とのワークショップを通してタスク／スコア／コンポジション／インプロヴィゼーションといった概念を実践的に理解し、様々なムーブメントの生成方法やダンス作品の創作現場におけるプロセスを体験する。</p> <p>ワークショップ、レクチャー、ディスカッション、授業内発表などを組み合わせ、教員の実践的指導のもとで作業を進める実習となる。主に以下のような要素を参加者の方向性に合わせて構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋舞踊史における「振付」に関するレクチャー 2. 身体表現と社会のつながりを考えるための文献紹介 3. 現代の振付家に求められる倫理観や知識に関するディスカッション 4. ムーブメント・ワークショップ 5. 動きのコンポジションと演出に関する実践 6. 受講者のアイデアを明確化するためのワークショップ 7. 創作の報告、発表とフィードバック 		

事前・事後 学習	事前学習として実習開始時までには各自どのような作品を作りたいか、実現可能なアイデアをまとめておくこと。また、事後学習として動画やノートなどを利用して制作プロセス（制作のスケジュールや体調を含む）を記録し、整理しておくこと。
テキスト	授業内で資料配布する。
参考文献	木村覚, 2009, 『未来のダンスを開発する』メディア総合研究所 児玉北斗・編, 2020, 『ダンスをめぐる12の文章』（ウェブサイト: https://writings.hokutokodama.com/) 早稲田大学演劇博物館, 2015, 『Who dance? 振付のアクチュアリティ』 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 Burrows, Jonathan. 2010. <i>Choreographer's Handbook</i> . Oxon and New York: Routledge. Pakes, Anna. 2020. <i>Choreography Invisible, The Dissapearing Work of Dance</i> . Oxford: Oxford University Press. Pouillaude, Frédéric. 2009/2017. <i>Unworking Choreography: Notion of Work in Dance</i> . Anna Pakes (Trans.), New York: Oxford University Press.
成績評価 の基準	実習内でのコミットメント（50%）、課題（50%）
履修上の注 意履修要件	
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	志望理由などを基に選考を行う場合があります。 毎日長時間、身体を実際に動かして行う実習です。十分に休息を取り、体力的に充実した状態で授業に望むことを心がけて下さい。